

第2回 食に関する指導研修会

平成31年2月2日(土)に江南市教育委員会 管理指導主事 伊藤勝治先生をお招きし、「子どもを惹きつける話し方・指導教材の使い方」という演題で研修会を行いました。175名の会員が参加し、子どもにとって楽しい授業とは何か、それを実践するためには何を心がけるとよいかについて学び、大変有意義な研修会となりました。



＜伊藤勝治先生＞

1 子どもにとって楽しい授業とは

子どもが楽しいと感じる授業とは「授業がわかる」「先生の話が面白い」「授業中のクラスの雰囲気がいよ」ことである。自分を子どもの立場に置いたとき、楽しいと感じる感覚を忘れないようにして、教師はどうするべきかを考えるとよい。栄養教諭は単発的にクラスに入るので、「わかる」「面白い」の視点から、授業作りを心がけるとよい。

2 楽しい授業にするための教師の心がけは

楽しい授業にするために心がける3つのこと『非言語・言語・行動』について学びました。

(1) 非言語（表情・態度など）

非言語には、目力・表情・間・手（ジェスチャー）・声のトーンがある。言葉や話の内容は、表情や手の動作を合わせることで効果的に伝えることができる。特に間については、「理解させる・印象付ける・期待させる」の3種類があり、子どもが考える・理解するための間をつくるのが大切である。

(2) 言語（説明・教えるなど）

教え好きで知識が豊富だと、話し過ぎてしまい、相手が求めていること以上に説明してしまう。その結果、一文が長くなり、相手に伝わらなくなる。結論を先に、なぜと聞きたくなる順序で、一文を短くして話すことで、必要な情報を伝えることができる。

(3) 行動（しかけ・手立て）

どうしたら子どもが気付くか、子どもの口から発してくれるかを視点に置いて、授業を進めていくことが、子どもが楽しいと感じる授業につながる。

先生のご講義は、具体的に活動する場面を多く取り入れたり、会場内を駆け回って会員のつぶやきをひろいながら進めたりするなど、学校での授業さながらの内容でした。まさしく「人を惹きつける」話し方や教材の使い方を、お手本として示していただきました。真剣にメモをとりながらお話を聞く会員の姿が多く見られました。栄養教諭は、限られた時間で伝えたいとの思いが強すぎて、話し過ぎてしまう傾向があります。子どもたちが楽しいと感じて、思わず惹きつけられるような授業をすれば、限られた時間でも心に残る食育になります。『非言語・言語・行動』を大切に、まずは栄養教諭自身が楽しいと思うこと、改めてはっとさせられました。



＜研修会の様子＞

《参加者の声》

- ・子どもをはっとさせる楽しい授業の工夫をしていきたいと思いました。
- ・先生のように、謙虚で熱い情熱をもった栄養教諭になれるように、努力していきたいと思います。